

- トップコラム／大阪大学大学院工学研究科 特任研究員 豊田 亘博
- 今必要なAi(オートプシー・イメージング)の知識
〔シリーズ4〕骨折の診断と小児虐待におけるAutopsy imaging (Ai)
- 元素とその放射性核種／〔その6〕ヨウ素
- お願い／直通番号が便利です!
- ご案内／クイクセルWebサービス

ト
ッ
プ
コ
ラ
ム
132



豊田 亘博

放射線取扱主任者に期待するもの

1965(昭和40)年に大学を卒業して住友化学に就職したが、30代の半ばで日本メジフィジックスに出向した。同社は住友化学が放射性医薬品を国産化するために設立した日米の合弁会社である。それから35年、人生の半分を放射線と関わったことになる。

病院の核医学検査で用いられるアイソトープを製造する仕事は、馴れなかった初めのうちは怖かった。仕事上の必要に迫られて放射線取扱主任者の資格を取得するとともに、放射線の正体がわかり、安全な取扱い方を理解するにおよんで、その心配は消えた。「幽霊を捕らえてみれば枯れ尾花」である。

日本アイソトープ協会放射線取扱主任者部会の関西常任委員会(近畿支部の前身)に加わるようになり、会社の外に世界が広がって多くの知己を得た。主任者部会の活動を通じて放射線を仕事とする上で必要な知識を得、経験を積むことができた。また、定年を迎えたときにも国家資格である放射線取扱主任者の価値と有り難みを知ることとなった。

放射線を取り巻く状況は、昨年の3月11日に起きた東日本大震災とそれに続く東京電力福島第一原子力発電所の事故で大きく変わった。めったにマスメディアに出てくることのなかった放射線の単位、シーベルトやベクレルが、テレビや新聞で毎日のように報道されるようになった。放射線に関わりのある仕事に携わっておられる読者の方々におかれても各人各様の経験をされ、さまざまな思いを持たれたことであろう。

2年前から大阪大学核物理研究センターの放射線管理

を手伝っていたが、この事故を契機にあたりがにわかに騒がしくなった。それまでは放射線を利用する分野に身を置き、エネルギー利用の原子力発電にはほとんど関係がなかったが、福島県警の応援に出る大阪府警から放射線防護や除染の方法について助言を求められた。また、原子炉の注水にハイパーレスキュー隊の若い人々を向かわせる神戸市消防局の依頼で、神戸大学や神戸薬科大学の先生方とともに放射線について講義をした。

今年の夏から非密封RIを取扱った知識と経験を買われて工学部へ移り、土壌の効果的な除染方法の研究に携わるようになった。放射性のセシウムを磁性ゼオライトに吸着させ、磁石で分離するというものである。放射能で汚染された建築物や土壌を効率的に除染し、あわせて放射性廃棄物の減容化を図って安全に管理する狙いがある。この先数年は福島の復興に微力ながら尽くすために福島の地と大阪の間を往き来することになる。

福島の原因事故で10万人を越す人たちが父祖伝来の地を追われ、慣れない土地で避難生活を送っている。お子さんを持つお母さんたちのなかには、放射能の影響におびえて自主的に故郷を離れている人もいる。ゆとり教育の影響でこの20年間、理科の授業数が減り学校ではほとんど放射線について教えてこなかったが、今春からは小学校から高等学校まで理科の教科書が改訂され、放射線の教育が始まっている。

東日本大震災からの復興は総力戦であり、各人がそれぞれの持ち場において協力することが求められている。放射線取扱主任者にはその専門性を生かして社会貢献のチャンスである。日本アイソトープ協会の公益法人化にともなって放射線取扱主任者部会を改称した放射線安全取扱部会では、先の年次大会においても「福島原因事故からの復興に向けて・放射線安全取扱部会ができることを探る」のテーマでシンポジウムを組んだ。今こそ、顔の見える活動、社会に開かれた活動に向けて、全国の主任者よ、立ちあがれ!

とよた のぶひろ (大阪大学大学院工学研究科 特任研究員)

プロフィール●1943年広島県生まれ。1965年京都大学理学部を卒業し住友化学に入社。1977年日本メジフィジックスに出向して放射性医薬品の製造、品質管理と放射線管理を担当。2002年の定年退職後は日本アイソトープ協会放射線取扱主任者部会近畿支部長、財団法人原子力安全技術センターの検査員・定期確認員、定期講習講師などを歴任。2010年大阪大学核物理研究センター特任研究員。一度は社会から身を引き南半球一周のクルーズに出かけたが、福島の事故によって退役軍人が戦場の前線に再び引き戻されたように感じている。2012年同大学大学院工学研究科特任研究員、現在に至る。